

## 互いの個性の理解

### ◆学習のねらい

友達のその人らしさを探すとともに、自分らしさを生かして地域や社会のために貢献していこうとする態度を育てる。

### ◆評価

地域活動に関心を持ち、自分らしさを生かして地域や社会に貢献しようとする意識をもつことができたか。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

※総合的な学習の時間や保健体育における「自己実現に関する学習」との関連を図ることができる。

### ◆主な使用教材

・ワークシート

### 展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習を知る。 「自分らしさ」と友達の「その人らしさ」を探そう。	
展開 40分	2 地域活動の一つとして、小学生の放課後を地域の人が支える「放課後子供教室」で、自分やグループのメンバーの好きなことや得意なことを生かして、どのような活動をしてみたいかを考えて、ワークシートに記入する。 3 ワークシートに書いた内容をグループで発表し合い、その中からグループで取り組んでみたいものを一つ決める。 4 決めた活動内容について、その活動に必要な役割と担当者を考える（例：絵本の読み聞かせをする。一緒に校（園）庭で遊ぶ。） 5 全体で発表し、意見や感想を交換する。 ・ 読書の好きな人が読み聞かせをするのは、適任だね。	○ 様々な活動をする際に、「自分らしさ」と友達の「その人らしさ」が表れることを伝え、関心をもたせる。 ○ 「放課後子供教室」について資料に基づき説明する。 ○ 役割分担では、「その人らしさ」に着目し、それを生かせる分担について考えることを伝える。
まとめ 5分	6 地域活動について考えたことを通して「自分らしさ」や友達の「その人らしさ」について気付いたことを発表する。 7 本時の振り返りを行い、ワークシートに感想を記入する。	○ 活動に見られるその人なりの視点の違いや感じ方の違いについて、気付くような説明を加える。 ○ 自尊感情や自己肯定感を高めることができるよう配慮する。

板書例

- 「自分らしさ」と友達「その人らしさ」を探そう
  - ↓ 様々な活動を通して表れる。
- 「自分らしさ」と友達「その人らしさ」
  - ・ 地域で行う地域活動
  - ・ 生徒会で行う地域活動
  - ・ 部活動を通して行う地域活動
- 様々な地域活動(例)
  - ・ 地域で行う地域活動
  - ・ 生徒会で行う地域活動
  - ・ 部活動を通して行う地域活動
- 「放課後子供教室」に参加するとしたら
 

どのような活動をしてみたいか

  - ・ 絵本の読み聞かせをする。
  - ・ 一緒に校庭で遊ぶ。
- 「自分らしさ」や友達「その人らしさ」について、気付いたこと
  - ・ それぞれ、自分の得意なことや、好きなことを生かして考えていた。
  - ・ 同じ地域活動でも、いろいろな活動が考えられていた。
- 活動の振り返り

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 40分	1 将来就きたい職業について、どのように自分の長所を生かしていくのか考える。 2 自分の短所を長所として見方を変えるためにどうすればよいのか考える。 3 グループ(3、4人)で、自分が考えた内容を発表し、ほかのメンバーから長所の生かし方や短所を長所として見方を変えるための方法等についてアドバイスをもらう。 4 アドバイスを基に、「自分らしさ」について振り返る。	○ アドバイスは肯定的な内容になるように事前に指導する。 ○ 長所を更に伸ばすことや、短所を補っていくことなど、自らの資質・能力を向上させるための方法は、各自異なり、多様な方法が考えられることに気付かせる。

【資料等】

1	<b>地域で行う地域活動</b> ○ 高齢者との交流体験 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化祭への招待</li> <li>・ 地域合同防災訓練 等</li> </ul> ○ 生徒会による地域への挨拶運動や地域清掃 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅や街角での挨拶</li> <li>・ 街路樹の落ち葉の清掃 等</li> </ul>	3	<b>部活動として</b> ○ 部活動の一環で、地域貢献活動等に取り組む。 例) 運動部による近隣の中学生の技術指導 文化部の施設訪問による演奏会
2	<b>生徒会で行う地域活動</b> ○ 生徒会長・副会長が中心となって、学校の近隣の現状を踏まえて、自分たちでできるボランティア活動を考え、実施する。生徒会本部が中心となって生徒会長・副会長と話し合い、どんな活動ができるか検討する。 ○ 地域社会の一員としての存在を確認したり、達成感や充実感を味わったりすることにより、ボランティア活動への意識を高め、校内だけでなく地域における実践へと広げる。	4	<b>活動内容と連携機関(例)</b> ○ 子供の健全育成を図る活動…保育園、児童館 等 ○ 地域安全活動…防犯協会、PTA 等 ○ 災害救助活動…消防署、消防団 等 ○ 町づくりの推進を図る活動…町内会、商店街 等 ○ 福祉等の増進を図る活動…福祉・医療施設 等 ○ 環境の保全を図る活動…公園・港湾・森林事務所 等 ○ 文化・芸術・スポーツの振興を図る活動 …地域の小学校、中学校 等 ○ 社会教育の推進を図る活動…図書館、博物館 等

2

互いの個性の理解

◆学習のねらい

自分の良いところに気付くとともに、友達や周りの人の良いところを積極的に見つけようとする態度を育てる。

◆評価

自分や友達の良いところを見付け、認めることができたか。

◆教育課程における位置付け

特別活動

◆主な使用教材

・「いいね！カード（自分用、友達用）」

展開例

	学習活動（・児童・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入	1 本時の学習を知る。	
	自分と友達の良いところを見付けよう。	
展開	2 自分にはどのような良いところがあるかを考え、「いいね！カード」に書く。	○ 文字を書く等の表現が苦手な児童・生徒がいる場合は、コミュニケーションツール等を活用する。 ○ ねらい・内容等を視覚的に示す。 ○ 教師が良いところの具体例を説明する。 ・学習、運動、芸術面での特技や個性 ・明朗快活さ ・基本的な生活習慣 ・優しさ ・努力 ・責任感 ・創意工夫
	3 「いいね！カード（自分用）」に書いた内容を発表する。 ・ いつも丁寧に挨拶をしている。 ・ 元気で、明るい。	(例) ・ 係の仕事を一生懸命やっている。 ・ 挨拶をきちんとしている。 ・ 部活動（クラブ活動）で頑張っている。 ・ いつも整理整頓がきちんできている。等
まとめ	4 隣の友達の良いところを見付け、「いいね！カード」に書く。 ・ 整理整頓が上手で、いつも身の回りをきれいにしている。 ・ 分からないことを教えてくれる。 ・ 誰にでも優しい。	○ 友達の良いところを挙げさせ、様々な見方があることや自分の良いところに気付いてくれている人がいることを理解させる。 ○ 文字が苦手な児童・生徒は、絵やシンボルなどで示してもよい。 ○ 係の仕事を頑張っている、字をきれいに書くなど例を挙げてもよい。
	5 「いいね！カード（友達用）」に書いた内容を発表する。	○ 発表された良いところを板書する。 ○ 導入で発表した児童・生徒数より多く発表させる。
	6 隣の人にカードを渡す。 7 ほかの友達の良いところをカードに書き、読んでから渡す。	○ 一人一人が、多くの良いところをもって伝える。 ○ T1は授業を進め、T2は児童・生徒支援を行う。
	8 本時を振り返る。	○ 自分が考える良いところと友達が伝えるその人の良いところを比べ、自分が気付いてなかった良いところに気付かせる。 ○ 一人一人の良いところなどに気付くことができるよう配慮する。

板書例

自分と友達の良いところを見付けよう

○自分にはどのような良いところがあるのでしょうか。

たとえば

- ・ 係の仕事を一生懸命やっている。
- ・ 挨拶をきちんとしている。
- ・ 部活動（クラブ活動）で頑張っている。

○友達の良いところを見付けましょう。

- ・ 整理整頓が上手で、いつも身の回りをきれいにしている。
- ・ 分からないことを教えてくれる。
- ・ 誰にでも優しい。

○気付いたこと

↓みんな多くの良いところをもっている。

○振り返り

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開	1 付箋紙に友達の良いところを書く。	○ 付箋紙には自分の名前を必ず書くことを伝える。
	2 付箋紙に書いた内容を発表する。ほかの児童・生徒は伝えてもらった自分の良いところについてメモを取る。	○ 「〇〇さんが〇〇をしてくれて嬉しかった」というエピソード等があれば併せて発表する。
	3 良いところを伝えてもらいどう感じたか、感想を言う。	○ 自分の長所として覚えておくように伝える。 ○ 具体的に、誰のどのようなときの行動が良かったというエピソードを、児童・生徒から引き出すようにする。

【資料等】

「いいね！カード（自分用、友達用）」（例）

自分と友達の良いところを見付けよう

いいね！ カード（自分用）

自分と友達の良いところを見付けよう

いいね！ カード（友達用）

望ましい人間関係の構築

◆学習のねらい

コミュニケーションにおいて、自分のことを話すだけでなく、相手の話をしっかり聞くことも大切であることを理解させる。

◆評価

相手の話を聞くことを通して、相手のことを理解することができたか。

◆教育課程における位置付け

特別活動

※国語科における「自己紹介等の活動」との関連を図ることができる。

◆主な使用教材

- ・東京都道徳教育教材集『心あかるく』〈小学校1・2年生版〉
- ・振り返りカード

展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 絵や写真を見て、何をしているのかを考える。	○ 東京都道徳教育教材集『心あかるく』94、95ページに掲載している内容を使用する。
展開 30分	2 本時の学習を知る。	
	ともだちのことをもっとしろう	
	3 活動について教師の説明を聞く。 (1) 二人組でじゃんけんをする。 (2) 勝った人は、話す人となり、休み時間に誰とどんな遊びをしたのか、何が面白かったのか、などについて話す。 (3) 負けた人は、聞く人となる。 ① 自分のことについては話さないでうなずいて聞く。 ② 話の途中で、「知っている」と言ったり、「どうして」と尋ねたりしない。 ③ 話す人が話し終わったら、質問をしてよい。 (4) 役割を交替して、繰り返す。	○ 学級の実態に応じ、話すテーマを決めてもよい。 ○ 人数が足りないときは、教師が入るようにする。 ○ 話す人役と聞く人役の区別をはっきりさせ、きちんと自覚させる。 ○ 早く話し終わってしまう場合は、もう一度丁寧に、内容を付け加えて話すように促したり、聞く人役の児童に質問させたりする。 ○ 聞く人役の態度が重要であることを伝える。
	4 教師の例を見る。	
	【話す人の例】 私は、今日の休み時間に、なわとびをしました。 場所は、校庭です。 友達の〇〇さんと一緒にやりました。 はじめは、前跳びや後ろ跳びをしました。50回以上続けて跳べたことがうれしかったです。	
	【聞く人の質問の観点の例】 いつ、どこで、誰と、何を、どんな気持ちでしたか、明日は何をするか、など	○ 話すことが苦手な児童もいるため、教師が例を示すようにする。一方の役は児童にやらせてもよい。 ○ 学級の実態に応じ【話す人の例】や【質問の観点】を板書で示したり、カードにして配布したりして児童に参考にさせてもよい。 ○ 活動が早く終わったグループから話合いに入る。
	5 二人組で実際に行う。(3分程度ずつ) 6 ほかの二人組と一緒に、4人グループを作り、自分が聞いた友達の話を新しくグループになった友達に話す(3分程度ずつ)。 7 4人グループで友達の話を聞いてどう感じたか話し合い、代表者が学級全体に発表する。	
まとめ 10分	8 本時について感じたことを振り返りカードに書く。 ・ 友達のことをたくさん知ることができた。	○ 「友達の話をよく聞いたことで、友達をもっとよく知ることができた」、「友達が私の話をよく聞いてくれてうれしかった」などの内容が出るとよい。

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

互いの個性の理解

望ましい人間関係の構築

規範意識の醸成

教員研修プログラム

いじめ問題への対応事例

板書例

ともだちのことをもっとしよう

○えやしやしんをみて、なにをして  
いるか、かんがえよう。

- ・みんな木の  
でたのしそつ。
- ・りん車やボ  
ールであそん  
でいるね。
- ・みんな、な  
か  
がよさそつ。



○ともだちのことをもっとしよう。  
ふたりぐみでじゃんけんをする。

かった人

↓はなす人

(休みじかんにあそんだこと)

まけた人

↓きく人

【きく人のやくそく】

- ・うなずいてきく。
- ・はなしのとちゆうで「しっている」といったり「どうして」とたずねたりしない。
- ・はなす人がおわたたら、しつもんしてよい。

○ともだちのはなしをきいて、かん  
じたこと

- ・ともだちのことをたくさんしる  
ことができた。
- ・ともだちのはなしをしんけん  
大きくことができた。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 30分	<p>1 どのような話し方・聞き方ができるとよいかグループで話し合う。</p> <p>2 グループ内で発表する。</p> <p>(1) 発表のテーマ（好きな動物、好きな遊び等）をグループで決める。</p> <p>(2) グループ内でじゃんけんをして、発表順を決める。</p> <p>(3) 発表順に、テーマに沿って自分の考えを発表する。</p> <p>3 時間があれば、テーマを変えて発表を行う。</p>	<p>○ 発表の際のルールを守って活動できるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>話す人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を見て最後まで話す。</li> </ul> <p>聞く人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を見てうなずいて聞く。</li> </ul> </div>

【資料等】

1 振り返りカード（例）

ともだちのことをもっとしよう

ねん ぐみ なまえ \_\_\_\_\_

やりかた

- ふたりぐみになり、じゃんけんをする。
- かった人は、話す人、まけた人は、聞く人になる。
- 話す人は、やすみじかんにだれと、どんなあそびをしたのか、なにがおもしろかったのかについて、聞く人に話す。

【聞く人のやくそく】

- ・うなずいて聞く。
- ・話のとちゆうで「しっている」と言ったり、「どうして」とたずねたりしない。
- ・話す人がおわたたら、しつもんしてよい。

○ ともだちのことをして、どうおもいましたか。

.....

.....

.....

.....

2 授業で使用するイラスト等



『心あかるく』94、95 ページ

## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

コミュニケーションを行う上で、言葉で伝えることに加え、相手の動きや表情をよく見たり、よく聞いたりして、相手が話したいことを知ろうとすることも大切であることを理解させる。

### ◆評価

相手に気持ちを伝えるにはどうすればよいかを考えて話し合う活動を通して、話を聞く態度や方法について理解することができたか。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

※社会科における「調べたことを伝え合う活動」等との関連を図ることができる。

### ◆主な使用教材

・ワークシート

### 展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	<p>1 インタビューを通して、友達を紹介する学習であることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達が興味をもっていることを聞きたい。</li> <li>・ 友達の得意なことって何だろう。</li> </ul>	<p>○ 難しそう、できないなどの反応が出ることが予想されるが、不安にならないようにし、楽しい雰囲気を作る。</p>
インタビューして分かった友達のことを紹介しよう。		
展開 30分	<p>2 インタビューをする。</p> <p>(1) ペアになった人と順番に、相手の好きなこと、もの、宝物などについてインタビューしてカードにメモする。</p> <p>(2) どのように話を聞いてもらうとうれしかったかを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ うなずいて聞いてくれた。</li> <li>・ にこにこしてくれた。</li> <li>・ 楽しそうに聞いてくれた。</li> </ul> <p>3 他者紹介をする。</p> <p>近くにいるペアと4人グループになり、先ほどインタビューした内容をほかの二人に他者紹介する。</p> <p>4 他者紹介をして感じたことをグループ内で発表する。</p>	<p>○ 答えられないもの、答えたくないものについては、答えなくてもよいこととする。</p> <p>○ 聞いている人は、話しやすいようによく聞くこと、話の途中で質問したり話を遮ったりしないように指示する。</p> <p>○ 良い聞き方についての意見を板書する。</p> <p>○ 良い聞き方を意識して紹介を聞くよう促す。</p>
まとめ 5分	<p>5 学習を振り返る。</p> <p>話をよく聞くための方法を確認する。</p>	<p>○ ワークシートに書いた感想と結び付けてまとめる。</p>

板書例

インタビューして分かった友だちのことをしようかいしよう

○インタビューで友だちに聞いてみたいこと

- ・今、きょう味をもっていること
- ・とくいなこと

○インタビューのやり方

ペアになった人とじゅんばんに、相手のすきなこと、すきなもの、たから物などについてインタビューして、カードにメモする。

○どんなふうに話を聞いてもらうとうれしかったか。

- ・うなずいて聞いてくれた。
- ・ここにこしてくれた。
- ・楽しそうに聞いてくれた。

友だちのことをしようかいしよう。

- ・自分が聞いたことをほかの人に発表することは、自分のことを発表するときよりもきんちょうした。
- ・ほかの人に自分のことをしようかいしてもらって、うれしかった。

○学習の振り返り

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 30分	<p>1 隣の席の児童と、順番に「好きな遊び」について話す。</p> <p>(1) はじめに相づちを打ちながら話を聞く。</p> <p>(2) 次に、相づちを打たないで、相手をじっと見て話を聞く。</p> <p>(3) 最後にもう一度、相づちを打ちながら話を聞く。</p> <p>2 学級全体で活動の感想を話し合う。</p> <p>(1) 相づちを打ちながら聞いてもらってどう感じたか。</p> <p>(2) 相づちを打たれないとどう感じたか。</p>	<p>○ ルールを守って活動できるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;活動のルール&gt;</p> <p>話す人：最後まで話す。</p> <p>聞く人：「相手がしてもらったらうれしいだろうな」と思う相づちを打ちながら聞く。</p> </div> <p>○ 相づちを打つことの大切さに気付き、コミュニケーションのもつ「お互いを大切に」力が実感できるように配慮する。</p>

【資料等】

コミュニケーション能力の捉え方とその育成

- コミュニケーション能力を、いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話して情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力と捉え、多文化共生時代の21世紀においては、このコミュニケーション能力を育むことが極めて重要である。
- コミュニケーション能力を学校教育において育むためには、①自分とは異なる他者を認識し、理解すること、②他者意識を通して自己の存在を見つめ、思考すること、③集団を形成し、他者との協調、協働が図られる活動を行うこと、④対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むこと、などの要素で構成された機会や活動の場を意図的、計画的に設定する必要がある。

参考：文部科学省『子どもたちのコミュニケーション能力を育むために』平成23年8月

ワークシート（例）

インタビューして分かった友だちのことをしようかいしよう

年 組 名前 \_\_\_\_\_

インタビューメモ

しつもん	友だちの答え

○ 話をよく聞くためのほう



## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

コミュニケーションを図ることで、互いに意思や感情、思考を伝え合うことや、新たな考えに気付いたり、考えを深めたりできることを理解させる。

### ◆評価

自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする活動を通して、コミュニケーションの大切さについて理解することができたか。

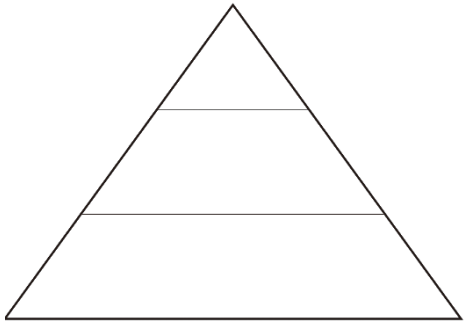
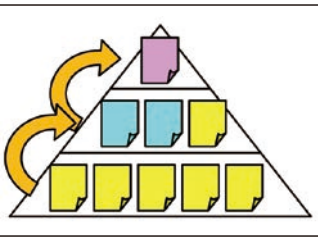
### ◆教育課程における位置付け

特別活動

### ◆主な使用教材

- ・ワークシート
- ・掲示用ルール
- ・付箋

### 展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習のねらいを知る。	○ いじめの防止に関わるテーマを設定する。
	いじめをなくすために必要な取組について話し合おう。	
展開 30分	2 ピラミッド・チャートについての説明を聞く。	○ 黒板にルールを掲示する。
	<p>【ピラミッド・チャート】…グループでそれぞれの考えを高め、まとめていく思考ツールの例</p> <p>① まず、個人でテーマに対して考え、一つの考えごとに1枚の付箋紙に書く。その後、グループ全員の付箋紙をピラミッドの形の図の一番下の部分に全て貼る。</p> <p>② 4人程度のグループで話し合い、大事なものを選んだり、組み合わせで新しい考えを出したものを付箋紙に書いたりして、中央の段に貼る。</p> <p>③ 中央の段に貼られた付箋紙について話し合い、グループの意見として考えをまとめる。グループの意見を付箋紙に書いて、一番上の段に貼る。</p>	
まとめ 10分	3 グループで「いじめをなくすために必要な取組」について、ピラミッド・チャートを行う。	○ 順位付けの根拠や理由を説明できるように考えさせながら作業をさせる。
	 <p>【ポイント】 「ほかの人の考えを批判しない。」「じゃんけんや多数決ではなく、メンバーの合意の下に決める。」ことを約束とし、話し合いを進めるよう声を掛ける。</p>	○ 他グループの主張とその理由を、自分のグループと比べながら聞かせる。
	4 グループごとに、ピラミッドの頂点に立った主張とその理由を発表する。	○ 自分たちの主張と同じところや、違うところに注目するよう助言する。
	5 活動を振り返り、各自が感じたことを発表する。	○ ワークシートに記入させ、数名に発表させる。

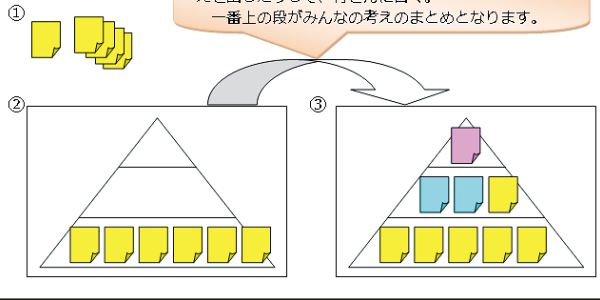
○今日の活動の振り返り

- ・ 見て見ぬ振りをしていないようにすること
- ・ 一人でなやまず勇気を出して助けを求めること
- ・ 一人一人がはじめをなくそうと意識し、行動すること
- ・ お互いに支え合うこと
- ・ だれもが平等だと思いい、相手を大切にすること
- ・ 相手の立場に立って気持ち想像すること

○グループごとに考えた「はじめをなくすために必要な取組」

<ピラミッド・チャートの使い方>

- ① 「はじめをなくすために必要なこと」を考え、一つの考えごとに1枚の付せんを書く。
  - ② ピラミッド・チャートの一番下の部分に全て貼る。
  - ③ グループで大事なものを選んだり、組み合わせたりして、新しい考えを出したものを付せん書き、ピラミッド・チャートの真ん中の段に貼る。初めの付せんより数が少なくなるようにする。
  - ④ 真ん中の段に貼られた付せんについてグループで話し合い、考えをまとめて付せん書き、一番上の段に貼る。
- ※ この作業を行うことによって、みんなの考えを整理してまとめることができます。



はじめをなくすために必要な取組について話し合う

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 30分	1 グループで「はじめをなくすために必要な取組」について、ピラミッド・チャートを行う。	○ 順位付けの根拠や理由を説明できるように考えさせながら作業をさせる。
	2 グループで発表者を一人決め、残りのメンバーは隣のグループに移動する。	
	3 発表者から説明を聞いた後、そのグループが作成したピラミッド・チャートについての質問や意見を述べる。	○ ほかのグループの主張とその理由を、自分のグループと比べながら聞かせる。
	4 初めの発表者以外の発表者を決め、残りのメンバーは更に隣のグループに移動する。(時間がある限り3、4を繰り返す。)	
	5 自分たちのグループに戻り、ほかのグループから寄せられた意見等を基に、更に話し合う。	○ ほかのグループから寄せられた意見を参考にしながら、更に考えを深められるよう助言する。

## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

コミュニケーションにおいては、互いに意思や感情、思考を伝達し合うことや、相手の考えを尊重して話し合うことが大切であることを理解させる。

### ◆評価

相手の意見を尊重しながら、自分の思いや意見を伝えることの大切さについて理解することができたか。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

### ◆主な使用教材

- ・東京都道德教育教材集『心みつめて』〈中学校版〉
- ・掲示用ルール
- ・単語カード（個人用、グループ用）
- ・ワークシート（個人用、グループ用）

### 展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	<p>1 東京都道德教育教材集『心みつめて』138ページを読み、人によって物事の捉え方が異なることを理解する。</p> <p>2 本時の学習を知る。</p>	<p>○ 『心みつめて』138ページから、これまでの話し合いなどでも自分の考えや思いが友達と違ったことを振り返らせる。</p>
<p>行事を行う上で大切だと思うことを考えよう。</p>		
展開 30分	<p>3 学級全体で学校行事を一つ選び、その行事を行う上で大切だと思うカードを、個人で順位を付けて並べる（「ダイヤモンド・ランキング」の方法については「板書例」を参照）。</p> <p>4 4人グループになって話し合い、グループのダイヤモンド・ランキングを作成する。</p> <p>5 グループごとに、合意したカードの位置付け及びその理由を発表する。</p>	<p>○ 話し合う際は、以下のことを確認する。</p> <p>① 全員の考えをきちんと最後まで聞く。</p> <p>② 考えが自分と違って「それはおかしい」、「間違っている。」などと言わない。</p> <p>③ 多数決では決めない。</p> <p>④ 少ない意見も大切な考えであり、新しい発見があるかもしれないのでよく聞く。</p> <p>⑤ 強く意見を言う人の言いなりにならない。</p> <p>⑥ ほかの人の考えを聞いて、なるほどと思ったら自分の考えを変える。</p>
まとめ 10分	<p>6 集団による意思決定を行い、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と話し合うことで、考えは違っていても、相手のことがよく分かった。</li> <li>・ 自分では気付かなかった考えを知ることができた。</li> </ul> <p>7 『心みつめて』139ページを読み、本時の学習内容を振り返る。</p>	<p>○ 自分とは違うものの見方や考え方に触れることで、自分の心が成長することを捉えさせる。</p> <p>○ 机間指導を行い、「意見がそれぞれ違う」という視点をもった生徒を選んでおく。</p> <p>○ 『心みつめて』の139ページ下の欄に自分の考えを記入させる。</p> <p>○ 意見が違うときに話し合ったことや、ほかの人の意見を聞いてなるほどと思った気持ちが大変であることをまとめとして押さえる。</p>

板書例

行事を行う上で大切だと思うことを考えよう

○テーマ

合唱コンクールで大切だと思うこと

○ダイヤモンド・ランキングの方法

- ① 9種類のカードを大切だと思うものから順位を付け、ダイヤモンドの形に並べる。
- ② グループになり、それぞれカードの位置付けについての理由を説明した後、グループ内でカードの順位を話し合って決める。
- ③ グループごとに話し合って決めたカードの位置付けと、その理由を発表する。

【話し合いの約束】

- ・全員の考えをきちんと最後まで聞く。
- ・考えが自分と違っても「それはおかしい」「間違っている」などと言わない。
- ・多数決では決めない。
- ・少ない意見も大切な考えであり、新しい発見があるかもしれないのでよく聞く。
- ・強く意見を言う人の言いなりにならない。
- ・ほかの人の考えを聞いてなるほどと思ったら自分の考えを変える。

○ダイヤモンド・ランキングを通して気付いたこと

- ・友達と話し合うことで、相手のことがよく分かった。
- ・自分では気付かなかった考えを知ることができた。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 30分	<p>1 自分たちの学校の良いところについて考え、ペアで交流する。</p> <p>2 「より良い学校づくり」をテーマに、「ダイヤモンド・ランキング」を行う。</p>	<p>○ 自分とは違うものの見方や考え方に触れることで自分の心が成長することを実感させる。</p> <p>○ 「話し合いの約束」(「板書例」を参照)を確認した上で、活動させる。</p>
	<p>【カードの内容例】</p> <p>「特別の教科 道徳」の内容項目等を参考に9種類のカードを用意しておく。 (思いやり、感謝、礼儀、友情、信頼、相互理解、寛容、公德心、公正・公平、等)</p> <p>(1) 個人で考え、自分の意見をもつ。 (2) グループ内で伝え合い、グループの意見をまとめる。 (3) 学級全体で、各グループの意見を伝え合う。 (4) 全体の意見を見て、分かったことを伝え合う。</p>	

【資料等】

行事「合唱コンクール」を例に取り上げた場合のワークシート (例)

合唱コンクールのダイヤモンド・ランキング

合唱コンクールで大切だと思うことをランキングしてください。

① 練習量 (どのくらい練習したか。)	⑥ 一生懸命 (精一杯頑張ったか。)
② 団結力 (みんなの心が一つになったか。)	⑦ 学級の結果 (良い成績を残せたか。)
③ 責任感 (自分の役割を果たせたか。)	⑧ 感動 (感動することができたか。)
④ 思い出 (思い出に残る取組にできたか。)	⑨ 個人の結果 (自分の技術が上がったか。)
⑤ 努力 (できる限りの活動ができたか。)	

上の内容をダイヤモンド・ランキングしてみましょう。

<カード>

練習量	団結力	責任感	思い出	努力
一生懸命	学級の結果	感動	個人の結果	

## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

言葉や感情表現によって相手への意思の伝わり方が異なることを理解させるとともに、自分の意思を正しく伝え、受け止めてもらえるような表現を行っていかこうとする態度を育てる。

### ◆評価

三つのタイプの自己表現（攻撃的、アサーティブ、非主張的）についての活動を通して、自他を尊重する望ましい自己表現で、コミュニケーションを図っていかこうとする意識をもつことができたか。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

### ◆主な使用教材

・ワークシート

### 展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習を知る。	
	望ましい人自己表現とはどのようなものかを考えよう。	
展開 35分	今日は、自分も相手も大切にする自己表現であるアサーションという考え方を通して、望ましい自己表現について、考えていきましょう。	○ コミュニケーションがうまくいかずに、嫌な思いをしたことがないか想起させる。
	2 場面1「あなたならどうする？」を行う。	○ 表情、姿勢等に留意させ、生徒が前向きな気持ちになるようにする。 ○ 1分程度でワークシートの場面1に取り組ませる。
	3 アサーションについて説明を聞く。 攻撃的(アグレッシブ)な表現、アサーティブな表現、非主張的(ノン・アサーティブ)な表現について確認する。	○ 場面1の三つのタイプの自己表現が、【資料等】に示す三つのタイプの自己表現であることを踏まえて確認する。
まとめ 10分	4 三つのタイプの自己表現を更に理解するために、場面2「映画を見に行こうよ！」を行う。	○ 生徒から自然に意見を引き出し、アサーションの考え方から説明させる。
	5 発表を行い、意見を述べ合う。	
	6 本時の振り返りを行う。 ・ アサーションの考えを生かして、学校生活を送りたいと思う。 ・ 言い方によって、相手の受け止められ方が変わってくるのが分かった。	○ 気付いたり、感じたりしたことを記入させる。
	7 ワークシートにまとめを記入する。	

板書例

望ましい自己表現とはどのようなものかを考えよう

○アサーションとは・・・

↓自分の欲求、考え、気持ちなどを、素直に、正直に、相手のことも配慮しながら、その場の状況に合った適切な方法で表現すること

【場面1】『あなたならどうする？』

※選択肢の中から、「自分ならこうする」というものを選ぶ。

○自己表現の三つのタイプ

攻撃的（アグレッシブ）な表現  
アサーティブな表現  
非主張的（ノン・アサーティブ）な表現

【場面2】『映画を見に行こうよ！』

※友人に対して、三つのタイプの自己表現で対応する。

○三つのタイプの自己表現を発表しよう。

○活動を振り返って

- ・アサーションの考えを生かして学校生活を送りたいと思う。
- ・言い方によって、相手の受け止められ方が変わってくるのが分かった。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 35分	<p>1 アサーション（適切な自己表現）について説明を聞く。</p> <p>2 相手にうまく気持ちを伝えられなかった経験について、話し合う。</p> <p>3 アサーションの考え方を生かし、どのような話し方なら、相手も自分も尊重して思っていることを伝えられるかを検討する。</p>	<p>○ 教師自身の体験談を例として伝えることにより、話合いの見通しをもてるようにする。</p> <p>○ 3、4人ほどのグループで話合いを行わせる。</p> <p>○ 相手を大切にしながら、自分の思いをきちんと伝えるという点を踏まえて指導に当たる。</p>

【資料等】

ワークシート（例）

アサーション：自分の欲求、考え、気持ちなどを、率直に、正直に、相手のことも配慮しながら、その場の状況に合った適切な方法で表現すること ※アサーティブとは、アサーションが実現されていること

自己表現（人間関係のもち方）には三つのタイプがあり、②のタイプをアサーションと考える。

① 自分のことを優先し、他者を無視・軽視する自己表現  
「攻撃的」「アグレッシブ」「きつい言い方」 I am OK, You are not OK

② 自分のことをまず考えるが、他者のことも十分に配慮する自己表現  
「アサーティブ」「さわやかな言い方」 I am OK, You are OK

③ 自分よりも他者を優先し、自分のことを後回しにする自己表現  
「非主張的」「ノン・アサーティブ」「はっきりしない言い方」 I am not OK, You are OK

場面1 「あなたならどうする？」

卒業後の進路についての三者面談を翌日に控えて、あなたは保護者と進路について話をしています。あなたは、技術を身に付け資格を取得するために専門学校へ進学したいと考えていますが、保護者は、「卒業後は大学に行きなさい。」と勧めます。こんなとき、あなたならどうしますか。「自分ならこうする」というものを選んで□に印を付けてみましょう。

- 1 「うるさいな！大学になんか行かないよ！」と怒って、どなりつけるように自分の意見を保護者に言う。
- 2 自分の意見を言うと保護者に反対されたり怒られたりするから、何も言えずに黙ってしまう。
- 3 「大学に進学するよりも、○○専門学校に行きたい。その理由は、…」と自分の意見や考えを保護者に伝える。

場面2 「映画を見に行こうよ！」

あなたは、友人と今度の日曜日に一緒に遊びに行くことになりました。友人は、「是非見たい映画があるから一緒に行こうよ。」とあなたに提案しました。しかし、その映画は、あなたが見たくない映画でした。友人に対して、3種類の表現で対応してください。

## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

コミュニケーションとは、互いに意思や感情、思考を伝達し合うことであり、言葉や文字だけでなく、声の大きさや話し方や態度などが大きな役割を果たすことを理解させる。

### ◆評価

相手と意思疎通し、協力することの大切さを理解することができたか。

### ◆教育課程における位置付け

国語、(保健)体育、自立活動等

### ◆主な使用教材

- ・ 2枚1組のカード
- ・ 掲示用模造紙(各児童・生徒用の欄が作成されているもの)
- ・ 画用紙(B6用紙の大きさのものがよい。)
- ※画用紙は、学級の実態に応じて付箋などに代えてもよい。

### 展開例

	学習活動(・児童・生徒の発言例)	○指導上の留意点
導入	1 本時の学習を知る。	
	相手に協力し、気持ちを伝え合おう。	
	2 コミュニケーションとは何かを考える。 (1) コミュニケーションは、人が社会生活を営む上で必要不可欠なものであることを理解する。 (2) コミュニケーションの手段は言葉が中心であるが、言葉だけではないことを知る。 ・ 顔の表情でも気持ちを伝えることができる。 ・ 言葉を使わないと難しい。  3 挨拶のロールプレイングなどを例にして、今日の授業の主な活動がコミュニケーションを用いたゲーム活動であることを理解する。	○ 目当て・内容等を視覚的に示す。 ○ 一方的に教師の話聞くだけでなく、質問したり、それに答えたりして、相互的コミュニケーションを進めていく。 ○ T1は授業を進め、T2は児童・生徒の支援を行う。
展開	4 活動のルールを説明を聞く。	○ ルールを理解させる。
	<ルール> ① 2枚1組のカードを教室にばらばらにして置く。 ② 各自が1枚だけカードを拾う。 ③ 自分とペアになるカードを持っている人を探す。 ④ ペアの相手と会釈やアイコンタクトをして得意なことをそれぞれ一つ伝える。(※「得意なこと」としているが、学級の実態に応じて「相手の良いところ」などと変えてもよい。) ⑤ ペアの相手の得意なことを画用紙に書き、握手をして渡す。 ⑥ 掲示用模造紙まで行き、自分の箇所にカードを貼る。(以下、②から⑥までを複数回繰り返す。)	
	5 教師のやり方を見る。	○ なるべく自分で考えさせるようにするが、うまくいかない場合は、教師が視覚的に分かりやすく説明をする。
まとめ	6 ペア探しの活動をする。	
	7 協力しようとしていたか、意思疎通ができていたかについて教師の評価を聞き、活動を振り返る。	○ ねらいについてのみ評価する。

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

互いの個性の理解

望ましい人間関係の構築

規範意識の醸成

教員研修プログラム

いじめ問題への対応事例

相手に協力し、気持ちを伝え合おう

○コミュニケーションとは何か

- ・自分の考えを相手に伝えること。
- ・話し合うこと。

↓コミュニケーションの方法は言葉だけでなく、いろいろな方法がある。

- ・顔の表情でも気持ちを伝えることができる。
- ・言葉を使わないと難しい。

○コミュニケーションを用いたゲーム活動をしよう。

【活動のルール】

- ①一枚だけカードを拾う。
- ②自分とペアになるカードを持つている人を探す。
- ③ペアの相手を見付けたら、得意なことをそれぞれ一つ伝える。
- ④ペアの相手の得意なことを画用紙に書き、握手をして渡す。

○活動を振り返ろう。

【資料等】

○その他の実践例 1

平均台の両端に一人ずつ立ち、平均台の反対側まで様々な方法ですれ違い、二人とも落ちないで渡る。本実践は、ルールをはっきりと意識させることがポイントである。近くにいる教師は、児童・生徒がうまくいくよう言語指示し、身体介助をする。また、すれ違う方法は教師が指示するのではなく、なるべく自分で考えさせるようにする。

場の設定の図（体育館やプレイルーム）  
複数の教師で対応し、コースの難易度別に分けた場を設定する。

(ルール)  
・すれ違いは自由とする。  
・失敗しても相手のせいにはしてはいけない。

▲コーン Aグループ

▲コーン Bグループ

▲コーン Cグループ

マークについて  
(●教師 ○児童・生徒 ▲コーン)

○その他の実践例 2

【お助けおにごっこ】  
＜ルール＞

- ① お助けマン役とおに役を決める。
  - ・ お助けマンは、帽子をかぶる。
  - ・ おには、たすきなどを掛ける。
- ② ほかの人はおにに捕まらないように逃げる。
  - ・ おににタッチされたら、その場で止まる。
  - ・ お助けマンにタッチされると動けるようになる。